

幸	を	見	す	農
せ		え	る	業
		る		ビ
		化		ジ
				ネ
				ス
V	O	L	11	

# 農業はノウハウが命

った経営力だっって小さなものではない。それで一体何を求めているかといえは、ノウハウなのである。

## ✓ノウハウは国境を越える

実際に農業の世界で、ノウハウが「商品」として求められている。わが社では、多様な圃場で多様な作物を作るべく、作物の数量や品質、納期をプランする「農業工程管理システム」を自社開発し、実践的に使用してきた。そのノウハウをデータベ

として販売するまでになった。手前味噌ながら、我われと同じように事業拡大を目指す農業法人、新規参入企業から、課題解決のツールとして評価を受けている。

ただだけ資本力と経営力を備えた企業でも世界に進出できるとは限らない。だが、ノウハウだけは軽々と国境も業界も越えていく。たとえば

オランダには病害虫の予察を専門とした企業があり、世界中の顧客先の圃場でデータを自動収集し、データセンターで解析し、最適防除法を顧客農家にフィードバックして儲けている。つまりノウハウを世界中に売

## ✓オランダの「フードバレー」

っているのだ。ノウハウ提供先が増えれば増えるほど、データの精度も高まるメリットがあり、こうして知的財産を持つているところが、業界を先導するフラッグシップ(旗振り)を発揮できるのだ。

我が社のシステムもデータ管理センターを整備し、ノウハウをさらに研ぎ澄ませていけば、顧客は日本国内に限られず世界にも通用すると信じている。

今回の視察旅行では、シリコンバレーの農業・食産業版といえる、オランダの「フードバレー」を視察し

10月に2週間ほど、視察目的でヨーロッパへ行く。ヨーロッパを訪れるのは初めてだ。農業先進国でどういったノウハウがどのように経営に活かされているか、それを確認したいと思っている。

昨年は本誌の視察ツアーでドバイに行った。そこで自分の経営感覚に強く残ったのは、資本と労働と経営が純化し、その結果、それぞれが分化した形でビジネスが行なわれているということだ。それに比べて、日本では資本家、労働者、経営者が未分化している。いい悪いの話ではなく、海外視察はこうした物事の直観的な見方を養ういい機会である。

資本と労働と経営の分化をどう位置づけるにせよ、3つの串刺しにし、事業を進展させられるのが、今回のテーマ、「ノウハウ」である。今、農業参入する多くの企業が、農家と組みたがっている。企業は資本もあるし、労働力も調達できるし、つちか



写真左はケール。10月末より収穫をスタート。写真右は焼酎用サツマイモの収穫の様子。予定収穫量は約280t、約14万本(一升瓶)の芋焼酎となる。



（有）さかうえ社長。1968年鹿児島県生まれ。24歳で就農。コンビニおでん用ダイコンの契約栽培拡大を通して、98年から生産工程・投資・予算管理の「見える化」に着手。これを進化させたIT活用による工程管理システム開発に数千万円単位で投資し続けている。現在、150haの作付面積で、青汁用ケール、ポテトチップ用ジャガイモ、焼耐用サツマイモなどを生産、提携メーカーへ全量出荷する。「契約数量・品質・納期は完全100%遵守」がポリシー。03年、500馬力のコーンハーベスタ購入に自己資金3000万円を投下し、トウモロコシ事業に参入。コーンサイレージ製造販売とデントコーン受託生産管理を組み合わせた畜産ソリューションを日本で初めて事業化。売上高2億7000万円。08年から食品加工事業に進出。剣道7段。

**坂上隆**  
Takashi Sakane

人脈を築くことを予定している。オランダは最新技術やオピニオンリーダーが数多く集まっており、小国にかかわらず、米国と同等の農産物6兆円を輸出している農業先進国である。見習うべき点は多いはずだ。

日本は個々の技術は高くても、試験機関や民間企業、現場の農業者がひとつの産業ブレイクスルーに向けて目標や情報を共有していない。しかしフードバレーでは産業発展に向け、品種開発から生産、加工、ブランドイングのプロが集積して切磋琢磨しており、一気にプロジェクトが決まって世界を目指すことができる。

言い方を変えればノウハウが共有

される仕組みがあるから、オランダは小さな規模の労働と資本、経営でも発展できているのではないか。行く前から、こう推測している。

**✓イタリアはヨーロッパの鹿児島**

また個人的にイタリア視察も楽しみにしている。南欧は日本における鹿児島に近いのではないかと勝手に思っていて（私の中でイギリスは北海道、オランダとフランスは本州のイメージだ）、参考になることが多いような気がする。

視察で学んだことは、次号でぜひ発表したい。

**欧州視察スケジュール予定表**

10.6	「農業経済研究所 (LEI)」でオランダ農業の強みを講習 先進的な酪農家訪問、「フードバレー」視察 オランダの家畜飼料専門家と面談
10.7	「国際植物研究所」のトウモロコシ種専門家と面談 「ミルクビー・アカデミー」で組織構築法を講習 「精密収穫予察システム」の開発企業訪問 「ワーヘニンゲン大学」の施設園芸専門家と面談 「ワーヘニンゲン大学」のバイオ作物育種研究員と面談
10.8	ワーヘニンゲン大学付属の施設園芸研究農場を視察 「フードバレー大賞」シンポジウムに出席
10.9	「フランス国際畜産展示会」を視察 先進的な肉牛農家訪問
10.11~13	「イタリア地中海農業展示会」を視察
10.15	「英国貿易投資省 (UKTI)」の農業・食品担当者と面談 「ナマヤサイ社」(英国で日本品種を栽培する農場) 視察 「ブランプトン農業大学」付属の酪農農場を視察
10.16	「スコットランド農業大学」訪問&講習 牛品種の血統DB管理、 気候変動を緩和するメタン発生抑制、 農場製造原価管理システム